

令和6年11月20日

周年行事で感じたこと

佐々木 朗 JH8CBH

1972年に北海道支部は8つの支部に再編成されました。全国的な動きなので、他の支部や地方本部でも昨年はイベントを開催したところも多いと思います。私たち渡島檜山支部は、一年遅れになりましたが、支部発足50周年の記念式典及び記念誌を発刊することができました。

渡島檜山支部では、30周年、40周年の時も記念誌を発行し、微力ながら私もそのお手伝いをさせていただきました。式典にも参加し、この支部はすごいなあと思っていたところでした。

私は、中学校3年生の時に開局しました。その頃は、同級生などいわゆる同年

代もたくさんいましたが、ちょっと先輩やだいぶ先輩などの大人の人たちが、ビギナーの私たちをととてもかわいがって下さいました。私も交信しては、QSLカードを携えて、自転車で、シャック訪問をさせていただきました。「アンテナの上になっている家はみんな親戚」の教えの通り、どこの家に行っても、「まあ、あがれや。」で、たくさんアマチュア無線のことを教えてもらいました。「新しい人に親切にする。」「仲間を大切にする」「常に新しいことを追求しようとする」などということ学びました。ここ函館は、連絡船、漁船、電電公社、鉄道など、通信関係の職場も多く、したがって、アマチュア局には、通信士



日本アマチュア無線連盟渡島檜山支部発足50周年記念式典
令和6年11月9日 函館市湯川町 畑野商店 ゆったりーな

も多く、モールスや通信方法などもかなり厳しく鍛えられました。

月日は流れて、私も、もう少しで開局50年。自分も教わる立場から、次の世代を育てる立場になってきたかなあと思いました。支部長に立候補したのも、まだまだアマチュア無線を発展させていきたいという気持ちからでしたし、また、そういう思いを次世代へつなげていくことが私を育ててくださった先輩方への恩返しになるとも思ったからです。

でも、現実には厳しかったです。「応援しているよ。」というたくさんの言葉をいただきましたが、役員をやってくくださる方は、ほんの僅か。でも、ありがたく、役員の名前を連ねていただき、事業は相談しながら進めました。とても心の支えになりました。その一方、実務は、自分一人であることが多かったのです。

今回の50周年も、10年後の60周年を見据えて、「50周年プロジェクト」を発足させ、若いメンバーに協力してもらおうかと思って、メンバーを募りましたが、全く手が上がらずでした。そこで、10月に「みなさん、助けてください、」ということで緊急の全体会を持ったところ10名程が集まって下さり、同年代の方、何名かにサポートをいたくことができ、準備を進めることができました。感謝しています。

「50周年はやりたいんだけど、やったらいいかなあ、やってもみんな無関心かなあ。」などと、悶々としていて、決心が揺らいでいて、やっと10月の会議でエンジンスタートですから、正味1か月で、記念誌を作るのは緩くありませんでした。最初の一週間ぐらいは、とにかく頼みに歩

きました。断られることがほとんどでしたが、拾ってくれる神ありで、原稿も集まってきました。「この資料、使ったら。」と提供して下さる方もいました。だんだん形になっていくのがうれしかったです。

記念誌発行は、祝賀会の日で11月9日です。10月末ごろまでに、信頼できるローカル局をお願いして校正をしてもらいました。私も丸二日間、原稿とにらめっこでした。その後は、印刷。132ページ、150冊を、夜中もかけてプリンターで印刷しました。印刷機が止まれば、起きて紙やインクの補充という生活が何日か続きました。製本業者に持っていき、祝賀会の前の日に出来上がった記念誌を見た時は、自分で言うのも変だけれども、とても感動しました。

祝賀会の方も、初めの頃は、両手もいかないうらいの人数でしたが、18名まで増えて、何とか形になりました。うれしいことに、最近開局した方、これからまさに開局しようとしてくださる方も参加して下さり、新旧入り混じっての楽しいひと時となりました。

私の前の支部長さんはその職を10年務められました。「何とか感謝状をもらってください。」と頼みに頼んで、もらってもらうことができました。私なんて、まだ半年ちょっとなのに、何回も何回も心が折れそうになっているので、10年務める偉大さは、尊敬以外の何物でもないので

す。式典が終わった次の日から記念誌配付です。遠いところは送料がかかりますが、郵送して、函館近郊は全て配って歩きました。送料がバカになりませんから。

記念誌が届いた方から、「よくやったね。」「よくまとまっているね。」などと言われるとやっぱりやってよかったかなあと思っています。50年の節目を残すことができ、少しは先輩方への恩返しができたかなあと思っています。

記念誌の構想を立てる段階で、東京都支部からいただいた記念誌は、たくさんの活動報告や、資料でいっぱい、足元にも及ばないなあと思いつつも、まとめ方などを、学ばせていただきました。ありがとうございます。

また、「佐々木さん、ぜひ使ってください。」との寄付も何名かからいただき、結構かかった経費の一部に充当させていただきました。こちらも感謝です。

時折JARLから会員名簿を取り寄せ、データを比較し、「新しく入った方がいる。やったー。」というのと、「この方、お辞めになったんだ。」とちょっと悲しくなり、会議期限がH99/12/31の往復はがきを出しても帰ってこない方への声掛けはどうしたらよいかなど、思いを巡らせながらも、支部の発展のことを一生懸命考えていきたいと思えます。

会員がおもしろそうだから、行ってみたいなあ、参加してみたいなあという行事を企画して、ローカル同士が研修し、



また、交流できるようにすること。そして、アマチュア無線の社会貢献について、会員の意識を高め、社会にPRしていくこと。それらが、支部長の仕事かなあと思っています。一緒にがんばって下さる推進者を探しつつ、新米の私の力がどれだけあるかわかりませんが、「がんばるだけがんばるわ。」という毎日です。

これからも、全国で頑張っている支部長さんの実践を伺って、支部運営を学びたいなあと思っております。